



MORAMORA

マダガスカル通信 第8号 2023年2月21日

ついに実現！3国間交流

Manao ahoana! 毎月15日にMORAMORAを発行してきたのですが、今号はついつい遅れてしまって…という訳ではありません。長い間やりたかった交流がついに今日実現したので、そのことについて書きたくて発行を遅らせていました。

この一年半、日本のいろんな学校と子ども同士の交流やオンライン授業をさせてもらってきました。最後は、せっかく同期の隊員が世界各地に派遣されているタイミングなので、カンボジア隊員2人の力を借り、3か国をインターネットでつないで行いました。交流のテーマは音楽。カンボジアは国歌の斉唱や「Arapiya」という曲の演奏等、日本は「Wish～夢を信じて」という歌、マダガスカルは「^{バクジャザナ}Vakodrazana」という伝統音楽と「^{ナマナ}Namana」という最近のポップスを歌いました。どの国もよく練習してくれたのが伝わる素晴らしい発表でした。複数の国を比べることで、一言で「外国」と言っても文化に大きな違いがあることに子どもたちが気づき、視野を広げるきっかけになってくれたらうれしいです。



ちなみに日本の現籍校はすごく気合いが入っていて、全校児童がオンラインで視聴、1年生は6時間目が無いのにわざわざ残って視聴してくれました。緊張で震えましたが、協力的であることを心強く思います。

伝統音楽・Vakodrazana

Vakodrazana についてもう少し詳しく書いておこうと思います。マダガスカルに古くから伝わる音楽の一つで、独立記念日等大きなイベントの際には、いくつかのグループがお揃いの衣装を着て、Vakodrazana を踊りながら歌います。

一方、現代っ子の小学生にとってはあまりなじみがないもののようです。Vakodrazana に詳しい担任の先生が子どもたちに教えてくれたのですが、最初はみんな臆げで、本番に間に合うのか不安でした。しかし先生がとても熱心で、日ごろから練習してくれていたらしく、僕が2週間に一度訪問するたび、見違えるように上達していました。本番ではすっかり自信を持って堂々と歌うことができました。

自分は何もしてないくせに、「マダガスカルの子どもたちにとっても伝統文化を知る良い機会だったんじゃないか」と得意満面になっております。

ドミノ倒さない

僕が協力隊に参加した最大の理由は、帰国後、日本の子どもたちに外国の様子を伝えるためです。マダガスカル遊びを覚えて帰っていっしょにしたいな～と思い、町なかで人々が遊んでいるのを見かけるたび、ルールやポイントをしつこく聞いてきました。アンズズルベでよく行われている遊びを3つ紹介します。

ドミノ

特に大人に人気の遊びです。軒先や道端で頻繁に行われています。日本でドミノというと、ブロックを並べて倒す「ドミノ倒し」を想像するかもしれませんが、しかし、マダガスカルではドミノを倒しません。数字が書かれたブロックを一人7つ取り、同じ数字がつながるように置いていって、手持ちのブロックがなくなった人が勝ち、というルールです。僕は市場でマイドミノを購入したので、近所の家に押しかけ、いっしょに遊んでもらっています。



ファヌルナ

大人も子どももよくやっている遊びです。ルールがとってもややこしく、傍で見ていただけでは理解できませんでした。帰国までにマスターしたいと思っていたところ、友人が食事に招いてくれたので、食後の団欒の時間にみっちり教えてもらいました。頭から煙が出そうなほど複雑でしたが、いい脳トレになりました。



カネティ

子どもに大人気の遊びです。学校の休み時間にもよくやっています。地面に釘を2本立ててゴールを作り、ビー玉を指で弾いてゴールに入れるゲームです。僕もいっしょにさせてもらったところ、地面がガタガタで全然うまくいかないのですが、子どもたちは力加減や方向を上手にコントロールしながら華麗にゴールを決めていて感心しきりです。



長谷川 太郎

出身：大阪府 職業：小学校教諭

協力隊に参加した理由：帰国後、日本の子どもたちに世界のことを伝えるため。

隊次：2021年度1次隊 職種：小学校教育 任地：アンズズルベ

活動内容：5～6校の小学校を巡回し、各校の先生といっしょに算数、理科、体育などの授業を行う。

